世界を正しくバランス良く見るために

長野県新聞活用教育（ＮＩＥ）推進協議会長
信州大学学術研究院教育学系教授
松本　康

夢を見ている時、明らかに変なできごとが起こっていても、それを夢とは気づかず、現実と思い込むことがある。うつぶせに寝ている背中に次々と猫が乗ってきて、いたずらをされる夢を見た。追い払っても追い払っても猫がどこからか次々と侵入して背中に乗る。おかしい、こんな変なことが起こるはずがないと強く思った瞬間に目が覚めた。部屋を見回し、そもそも猫が入ってこられる構造ではないことに安心して、また眠りについた。

睡眠中の夢は、人間の脳が外からの情報が遮断された状態で、記憶の一部をおそらくはランダムに組み合わせて作り出す、あり得ない「現実」である。それが間違っていると気づくためには、外から正しい情報を取り入れて、認識を改めなければならない。正しい情報のフィードバックがなければ悪夢は終わらない。

対話型オンライン AI の ChatGPT といくつか対話してみた。得意分野が偏っていて、データベースが整っている分野については正しく答えるのだが、そうでない苦手な分野については、既存のデータを組み合わせてもっともらしい誤答を出してしまう。時事問題は 2021 年がデータの限界で、それ以降については、2023 年 2 月時点のイギリスの首相はボリス・ジョンソンだと言い張り、安倍晋三元首相はまだ健在だと答えた。善光寺を説明させると、他の寺の情報が入り混じる突っ込み所満載の誤答を返した。『日本版 Newsweek』（2023 年 3 月 7 日号，pp.59-61）によれば、使い方によっては、ChatGPT はフェイク拡散器になってしまう恐れがあるという。AI は社会的に蓄積された膨大なデータに基づいて推論するが、データの限界によって不思議な誤答を作り出す点は人間の夢に近く、当然ながら、間違ったデータが入力されると間違った答えが返ってくる。

新聞社というメディアにもまた、毎日大量の情報が入力され、大量の記事が出力される。AI と異なるのは、そのプロセスに「何が正しい情報か」を人間が吟味するファクトチェックが含まれることである。情報収集、取材、分析、執筆、編集、報道の価値判断など、すべてに人間が関わっており、共有された「正しさ」の基準に基づいて情報の扱いが決定される。人の目で何重にもファクトチェックを行った質の高い情報が発信されること。それこそが新聞に残された生命線である。

1 年が過ぎてしまった悪夢のようなウクライナ戦争は、SNS によってリアルタイムの戦場が伝えられ、公開情報による戦況分析（OSINT：Open-Source Intelligence）が可能になった史上初めての戦争と言われている。東欧の報道に弱い日本の新聞を物足りなく感じて、しばらくは SNS や外信などから情報収集をしていたが、虚実入り交じる情報の中でかえってわからないことが多くなり、結局は数日遅れの控えめな新聞記事で事実を確認することが続いた。世界を正しくバランス良く見ることは難しい。だからこそ、信頼に足るメディアを読み解くことが必要である。AI のファクトチェックはまだまだ人間に勝てないのだから。